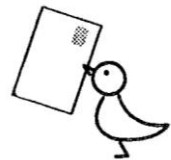


産経新聞



ひびくばえ倶楽部

医療の進歩で笑顔広げたい

中学生 ボタリー希新きあら 15

米西部カリフォルニア州 サンディエゴの病院で、昨年12月に体重245gで生まれた女の子の赤ちゃんが5月に退院したことが報じられていました。未熟児で生まれて、順調に成長したケースとしては世界最小だそうです。この事実にとっても驚かされました。

私の妹の友達の中にも465gで予定日より早く生まれた子がいます。私が小学生だった頃は、その子はとても明るくて、いつも楽しそうに話しかけてくれま

ました。もし、医療が進歩していなかったら、その子に会えなかったかもしれないと考えると、ぞっとしてしまいます。

もちろん、医療によって命を危険にさらす場合もあるとは思いますが、米西部で生まれた245gの赤ちゃんが助けられたように、医療は多くの人を救ってくれるものだと思います。医療のさらなる進歩により、もっと多くの人たちに笑顔が広がってほしいです。

(東京都文京区)